



枕崎市 地域学校協働活動だより

令和5年5月号

パソコンで検索

枕崎市地域学校だより

検索

スマホで読み取り



発行
枕崎市
教育委員会
生涯学習課

「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取り、パソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

地域学校協働活動とは？



「地域学校協働活動」とは、地域と学校が連携・協働して子供たちの学びと成長を支える活動のことで、地域の人達が子供たちと関わることで、地域の活性化にもつながる活動です。

昔は、子供たちは、地域での遊びや子ども会活動、家庭や地域での様々な行事や手伝いなどの体験を通して、先輩・後輩といった異年齢間の人間関係の在り方や人への思いやりなどを学び、成長していったと思います。

現在の子供たちは、社会環境の変化によって、地域での異年齢間の遊びや体験活動を行う機会が少なくなっているため、社会総掛かりで子供たちの学びと成長を支える「地域学校協働活動」に国全体で取り組んでいます。

学校で地域の方がボランティアとなって行う学校応援団活動はもちろん、学校で行われている地域人材による外部講師の活用、職場体験学習などの校外学習なども「地域学校協働活動」です。また、地区公民館で取り組んでいる青少年講座、市内それぞれの地域で子供たちが関わる地域行事、子ども会活動や地域の人々による子供たちの見守り活動なども「地域学校協働活動」になります。

「地域学校協働活動」を進めることで、子供たちが地域の方々に見守られ、支えられながら、豊かな学びや体験活動を行い健やかに成長していくことは、地域に愛着を持ち、地域に貢献したいと考える将来を担う人材の育成につながるものです。さらに、子供たちが、地域の行事や活動に積極的に参加し、地域住民が子供の学びと成長を支える活動に参加することで、地域全体の活性化が図られ、地域創生につながっていくことが期待されています。

交通安全運動は年に4回、春夏秋冬に行われ、市内30箇所以上の交差点や横断歩道で、ボランティアの方々によって街頭指導・子供たちの登校見守り活動が行われています。今年は統一地方選挙があったために、例年4月に行われる春の交通安全運動が5月に実施されています。

そんな中、鹿児島県警本部から「少年警察ボランティア」として委嘱されている古閑修一さんは、新学期が始まった4月6日から21日まで、まくらざき保育園前での街頭指導・見守り活動を行っていました。古閑さんは、毎年4月、9月、1月の新学期が始まってから約2週間と第2土曜日の朝に、子供たちの街頭指導・登校見守り活動を行っていて、活動を始めてから約50年間子供たちの見守りを続けられています。



まくらざき保育園前で子供たちを見守る古閑さん

4月20日には枕崎小学校近くの4箇所の交差点で「毎月20日の街頭指導」も行われ、交通安全協会や市役所職員の方々が見守り活動を行いました。枕崎市の子供たちは、地域の方々に見守られながら元気なあいさつを交わして登校をしています。

～新学期の始まりに朝の街頭指導 50年間 子供たちの登校を見守り～

～学校田で手植えの田植えを体験～ 桜山小学校

校区内で農業を営む山崎己代治さん、JA 枕崎支所の下木原さんに指導していただき、最初は手で植えて、真っ直ぐ植えることや、土の中にしっかり押し込むことなど、田植えがとても大変だということを実感しました。

次に、機械に乗って植える体験をしました。早く、真っ直ぐ、綺麗な間隔で植えることができる機械に子供たちは感動していました。とても貴重な体験をさせていただき、子供たちは食べ物を育てる大切さを実感できました。

植えられた稲は早期水稻で、5アールの学校田で「うるち米」と「もち米」を半々ずつ育てます。8月に収穫を行い、秋の桜山小 PTA バザーに出品し、12 月には「もちつき」を行う予定です。

桜山小学校では、4月13日に総合的な学習の時間で、5年生32人が学校田で田植えを体験しました。



手植えで稲の苗を真っ直ぐ植える児童

新学期に入り新1年生を迎えて、枕崎市内の小中学校では交通安全教室がそれぞれの学校で行われています。立神小学校では、4月15日に1年生と2年生が学校で交通安全のDVDを見た後、立神校区内にある南海自動車学校で、実際に自動車を走らせて実践的な交通安全教室を行いました。

～校区内の南海自動車学校で リアルな交通安全教室～ 立神小学校



車が止まるのを確認して横断歩道を渡る

南海自動車学校を1時間貸し切りにして、自動車学校の先生方や市の交通安全指導員が指導を行うもので、自動車学校の好意で30年以上も続いている行事です。

交通安全教室では、自動車が道路を走っている中で、安全な横断歩道の渡り方を指導した後、自動車がブレーキをかけても急には止まれず風船を割ってしまう実験、人形が自動車の陰から車道に飛び出して自動車と衝突してしまう実験などが行われました。

「安全な横断歩道の渡り方」では、子供たちは「止まる」「見る」「待つ」を何度も確認していました。

～別府台地に広がる茶畑で 茶摘み体験学習～ 別府中学校

体験学習を行いました。枕崎市は県内でも有数のお茶の産地で、中でも別府地域は茶業が地元の基幹産業であり、市内のお茶生産の主力となっています。茶摘み体験学習は、働く尊さを学ぶ別府中の恒例行事で、20年以上前から続いています。

農研機構の吉田さんからお茶の手摘みの手法である「一芯三葉（いっしんさんよう）」の説明をしていただき、その後実際に茶摘みを行いました。

一芯三葉とは、上質な緑茶を作るための手摘み手法のひとつで、良芽を選び、芯芽と芽の下の葉を一枚、二枚、三枚と数えつつ丁寧に摘む方法です。生徒たちは、昔ながらの手摘みで茶葉を指で挟み丁寧に摘んでいきます。通常は機械で刈り取りが行われますが、全員が丁寧に新芽を摘み取り、貴重な体験をさせていただきました。

今回収穫した茶の品種は「はるみどり」で、約25kgの茶葉を収穫することができました。茶葉は農研機構で加工され、煎茶になって生徒に贈られるということです。

別府中学校では4月25日に、校区内の瀬戸にある「農研機構」枕崎茶業研究拠点の茶畑で、全校生徒が茶摘み



「一芯三葉」で新芽を手摘みする